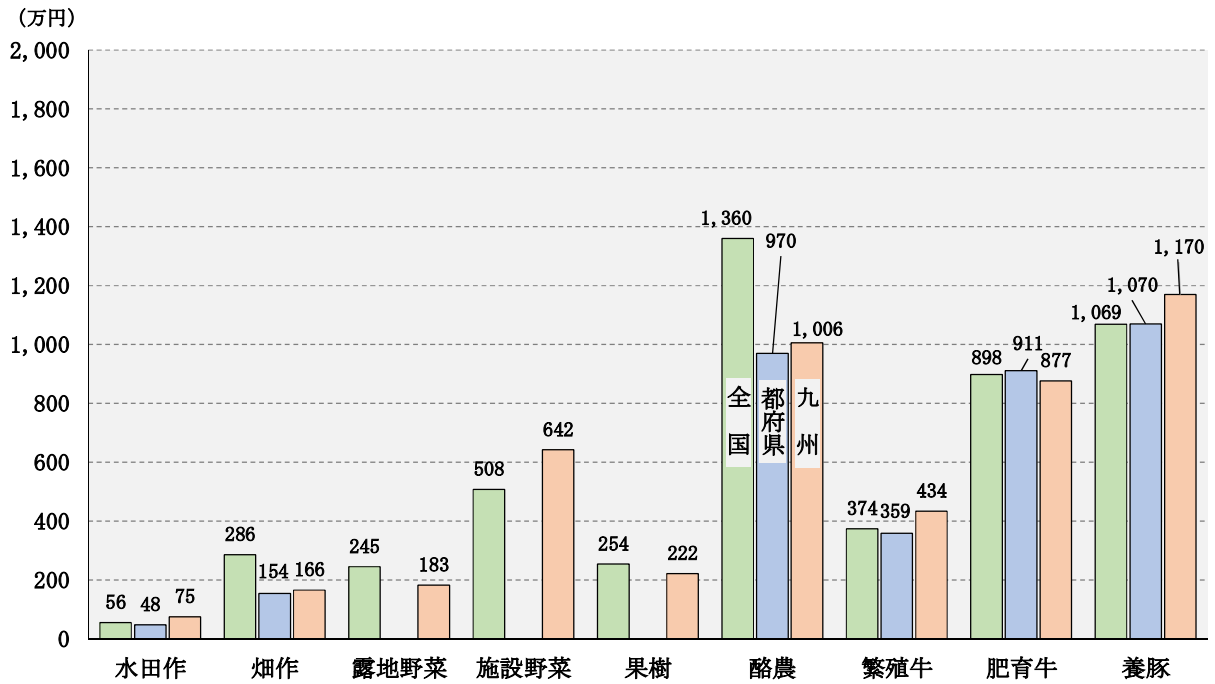


4 営農類型別にみた収益性の動向（個別経営）

（1）農業所得

- 1経営体当たりの農業所得は、主業的経営体が多い畜産部門で高く、小規模な副業的経営体が多い水田作では低くなっている。
- 農業所得と労働時間の関係を見ると、畜産部門では労働時間に対する所得が比較的高く、他方、野菜作や果樹作では比較的低くなっている。

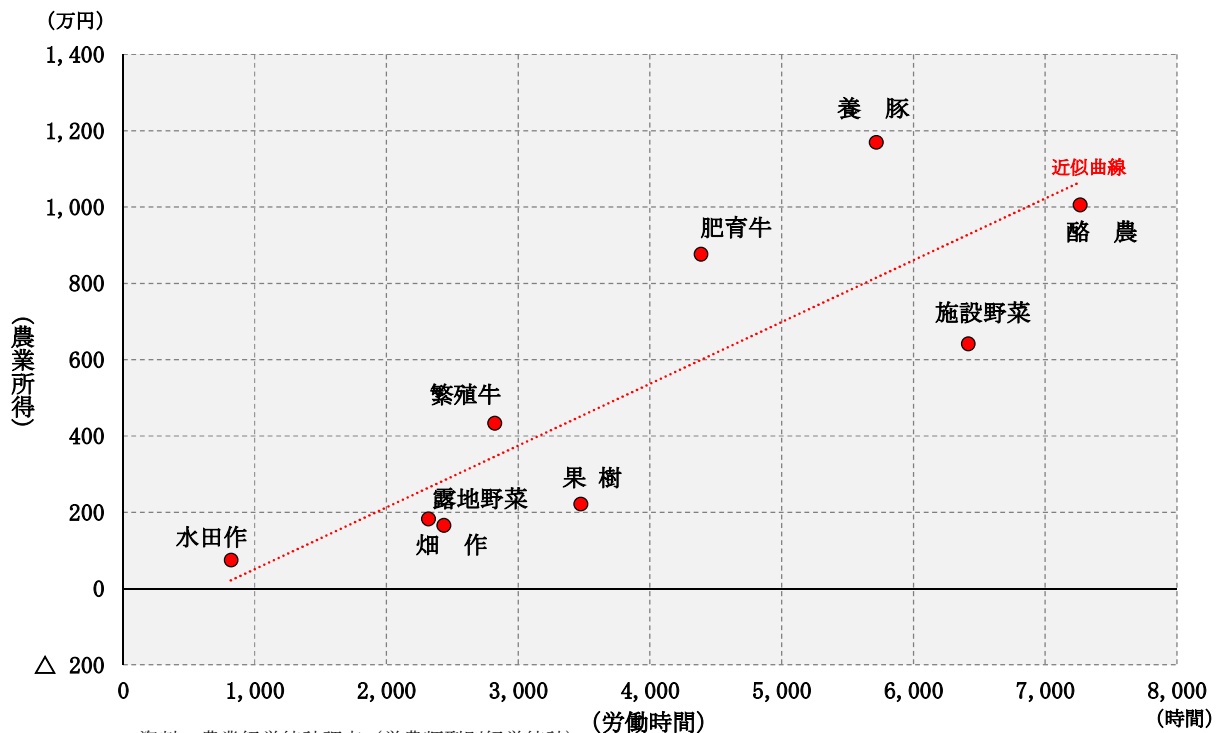
営農類型別の1経営体当たり農業所得（平成30年）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

注：露地野菜作、施設野菜作及び果樹作については、都府県の集計を行っていません。

営農類型別1経営体当たり農業所得と労働時間（平成30年・九州）



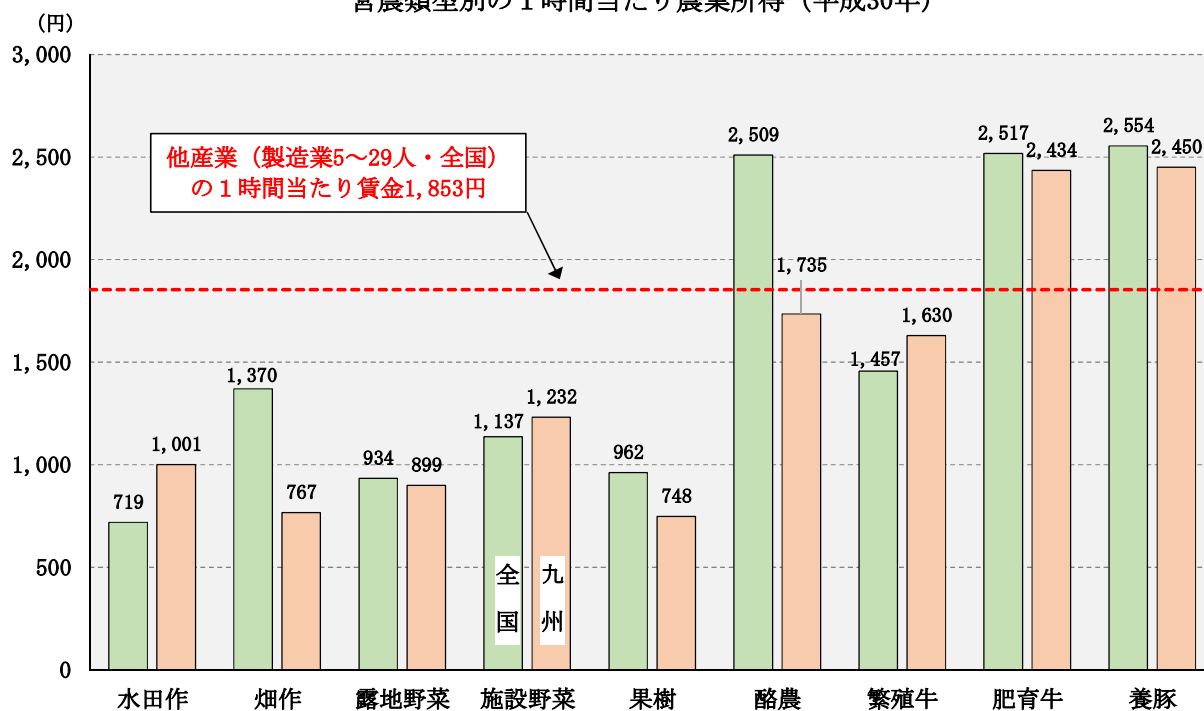
資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

4 営農類型別にみた収益性の動向（個別経営）

（2）1時間当たり農業所得

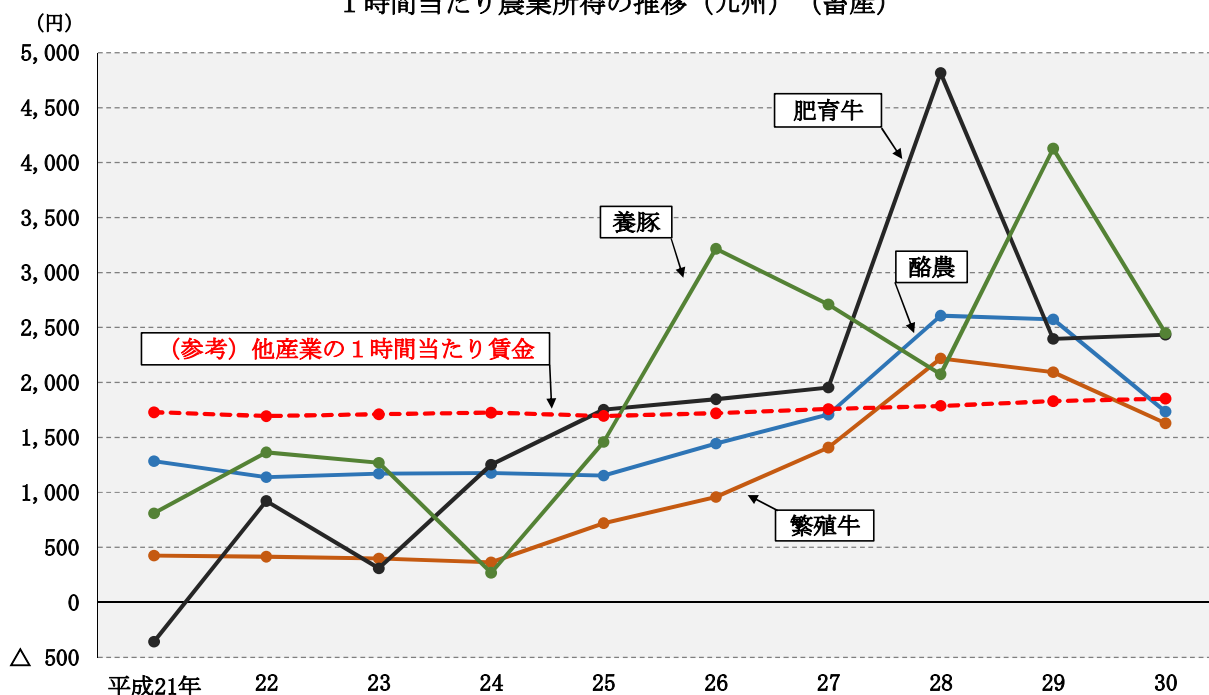
- 1時間当たり農業所得は、畑作、果樹、酪農を除き全国とほぼ同水準となっており、営農類型別に比較すると、規模拡大が進んでいる畜産部門で相対的に高くなっている。
- 平成30年の畜産部門の1時間当たり農業所得は、肥育牛と養豚が他産業従事者の賃金水準を上回っている。

営農類型別の1時間当たり農業所得（平成30年）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）、厚生労働省「毎月勤労統計」（H30）

1時間当たり農業所得の推移（九州）（畜産）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）、厚生労働省「毎月勤労統計」

注：他産業の1時間当たり賃金は、製造業5～29人規模の全国の数値。